

令和 1 年度 事務事業評価シート

事務事業の概要・計画 (PLAN)

事務事業名	スマートIC整備事業	会計名称	一般会計		担当課	土木管理課	
		予算科目	8 款 2 項 4 目	事業番号	3581	所属長名	武智年哉
事業評価の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 評価対象事業 <input type="checkbox"/> 評価対象外事業 (事業の概要・結果のみ)				担当責任者名	福井剛志	
法令根拠等	高速自動車国道法、スマートインターチェンジ整備事業制度実施要綱				実施期間	【開始】	令和/平成 26 年度
総合計画での位置付け	快適空間都市の創造 人に優しい道路・交通体系づくり					【終了】	令和 1 年度(予定) <input type="checkbox"/> 設定なし
総合計画における本事業の役割	本事業は総合計画において、快適空間都市の創造（人に優しい道路・交通体系づくり）に位置付けられており、本事業の推進により、産業や市民の交流・連携の強化に寄与するものである。						
事業の対象	地域住民及び関係機関		事業の目的		過疎化、少子高齢化が急速に進行する中山地域にスマートインターチェンジを設置し、交通の利便性の向上、災害時における救援救護ルートの確保、救急医療機能の充実・向上を図ることにより、地域の振興・活性化に資する。		
事業の内容 (整備内容)	中山スマートICを整備するとともに、併せてスマートICに連結する市道日尾野引坂線の拡幅改良を実施する。		昨年度の課題に対する具体的な改善策		今年度末の供用については、予定通り令和2年3月21日供用となった。工事完了後の事後調査・損失補償も全件完了した。		

事業活動の内容・成果 (DO)

事業費及び財源内訳 (千円)							事業活動の実績 (活動指標)					
項目	前年度決算	当初予算額	補正予算額	継続費その他	翌年度繰越	決算額	項目	単位	前年度実績	1年度予定	9月末の実績	1年度実績
直接事業費	236,720	428,168	47,600	0	7,000	563,588	スマートIC工事費	千円	113460	290000	0	419041
国庫支出金	125,842	232,254	2,277	0	0	307,690						
県支出金	0	0	0	0	0	0						
地方債	101,800	177,700	18,000	0	0	238,400						
その他	0	0	2,000	0	0	2,075						
一般財源	9,078	18,214	25,323	0	7,000	15,423	市道日尾野引坂線工事費	千円	103901	125000	16670	134172
職員の人工(にんく)数	2.60	3.00				3.00	用地費及び補償費	千円	10606	0	0	3915
1人工当たりの人件費単価	7,982	7,992				7,992						
※ 直接事業費+人件費	257,473	452,144				587,564	主な実施主体	千円	2928	0	0	7913
実施形態(補助金・指定管理料・委託料等の記載欄)	直接実施、NEXCO西日本		委託料(NEXCO委託:スマートIC調査設計等・工事)		測量及び試験費							
向こう5年間の直接事業費の推移(千円)					2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	5年間の合計		
					0	0	0	0	0	0		
成果指標	指標	事業進捗率(%) = 執行済事業費(直接事業費) / 推計総事業費(直接事業費)			単位	区分年度	前年度	1年度	-年度	目標	1年度	
					%	目標	69	100				
	指標設定の考え方	総事業費に対する執行率により事業進捗状況を計る。総事業費: 1,218百万円【令和2年3月時点】			⇒	実績	54	100				
指標で表せない効果	スマートICを設置し高速道路の利用を可能にすることで、救助活動及び救援物資輸送ルート等災害時の多重性を確保するとともに、救急医療機関への搬送時間の短縮による救命率の向上が図られる。これらの効果は定質的には表すことができるものの、定量的には図れない。なお、事業費に占める割合が大きい工事費の未執行時点では、事業進捗率が低く示される。また、事業進捗に伴い、総事業費が変動していくため、各年度毎時点での執行率の推移に変動が生じる。											

事務事業評価 (CHECK)

新たな課題や当初の改善策に対する対応状況 (今年度の途中経過)		今年度供用を目標に事業を進めているが、市道工事は土工が概成し舗装工事を残すのみとなった。また、NEXCO委託のスマートIC区間工事も順調に進むなど工事完成に一定の目途がたった。										
事務事業評価	自己判定 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	5 4 3 2 1	施策の目的を果たすために必要不可欠な事業である。 概ね、施策の目的に沿った事業である。	3	合計点が	A	事業成果・工夫した点	事業の苦勞した点・課題	平成26年度から事業着手したが、当初予定どおり、令和2年3月21日に供用開始とすることができた。事業施行にあたっては地元協力が必須であることから、地元への説明を丁寧に行うことで、周辺住民からの苦情もなく円滑に事業進捗が図られた。	
			社会情勢等への対応	5 4 3 2 1	この事業では施策の目的を果たすことができない。 社会情勢等のニーズに合致する。又は、行政管理上必要な事業である。 社会情勢に概ね適合する。又は、行政管理上、概ね妥当である。	3						14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D
			市の関与の妥当性	5 4 3 2 1	社会情勢又は行政管理事務に対応しておらず、見直しが必要である。 市が積極的に関与・実施すべき事業である。 今のところ市の関与・実施は妥当と判断できる。	4						
		有効性	事業の効果	5 4 3 2 1	市民生活や行政内部の課題解決に大いに貢献している。 市民生活や行政内部の課題解決に向けて対応できている。	4	合計点が	A				
			成果向上の可能性	5 4 3 2 1	市民生活や行政内部の課題解決になっていない。 既に相応の成果を得ているが、まだまだ成果向上の余地がある。 今後、成果の向上が期待でき、事業継続の必要がある。	3						14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D
			施策への貢献度	5 4 3 2 1	目的は十分達成されており、事業継続の必要性は低い。 施策推進への貢献は多大である。 施策推進に向け、効果を認めることができる。	3						
	効率性	手段の最適性	5 4 3 2 1	現状では最善の手段であり、他の方策を検討する必要はない。 最適な手段であるが、更に民活、他事業との統合・連携等の検討の余地がある。	3	合計点が	B					
		コスト効率	5 4 3 2 1	活動指標の実績も上がらず、効率的な手段の見直しが必要である。 投入コスト以上の成果を得ており、コスト削減の余地は見当たらない。 コスト削減に向けた取り組みを実施し、それに見合う成果を得ている。	3			14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D				
		市民(受益者)負担の適正	5 4 3 2 1	他事例と比較し、財源・税負担も含め市民の負担は適正と認める。 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民負担の検討の余地がある。	3							
	一次判定 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	5 4 3 2 1	施策の目的を果たすために必要不可欠な事業である。 概ね、施策の目的に沿った事業である。	4	合計点が	A	事業の方向性	所屬長の課題認識	<input type="checkbox"/> 事業継続と判断する。 <input type="checkbox"/> 事業縮小と判断する <input checked="" type="checkbox"/> 事業廃止と判断する (判断の理由) 中山スマートICは平成26年8月8日の連結許可より本格的な業務・工事促進となり令和2年3月21日の開通により当事業は完了したが、工事用道路として使用した周辺農道は一部において補修・整備が繰越となった。今後はオンランプ、オフランプの自動車専用道路の一部が伊予市道であるため8-2-2-3470道路維持費で執行することとし、スマートIC整備事業予算はないことから担当責任者の記載のとおり。	
			社会情勢等への対応	5 4 3 2 1	この事業では施策の目的を果たすことができない。 社会情勢等のニーズに合致する。又は、行政管理上必要な事業である。 社会情勢に概ね適合する。又は、行政管理上、概ね妥当である。	4						14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D
			市の関与の妥当性	5 4 3 2 1	社会情勢又は行政管理事務に対応しておらず、見直しが必要である。 市が積極的に関与・実施すべき事業である。 今のところ市の関与・実施は妥当と判断できる。	4						
有効性		事業の効果	5 4 3 2 1	市民生活や行政内部の課題解決に大いに貢献している。 市民生活や行政内部の課題解決に向けて対応できている。	4	合計点が	A					
		成果向上の可能性	5 4 3 2 1	市民生活や行政内部の課題解決になっていない。 既に相応の成果を得ているが、まだまだ成果向上の余地がある。 今後、成果の向上が期待でき、事業継続の必要がある。	4			14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D				
		施策への貢献度	5 4 3 2 1	目的は十分達成されており、事業継続の必要性は低い。 施策推進への貢献は多大である。 施策推進に向け、効果を認めることができる。	4							
効率性	手段の最適性	5 4 3 2 1	現状では最善の手段であり、他の方策を検討する必要はない。 最適な手段であるが、更に民活、他事業との統合・連携等の検討の余地がある。	4	合計点が	A						
	コスト効率	5 4 3 2 1	活動指標の実績も上がらず、効率的な手段の見直しが必要である。 投入コスト以上の成果を得ており、コスト削減の余地は見当たらない。 コスト削減に向けた取り組みを実施し、それに見合う成果を得ている。	4			14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D					
	市民(受益者)負担の適正	5 4 3 2 1	他事例と比較し、財源・税負担も含め市民の負担は適正と認める。 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民負担の検討の余地がある。	4								

施策を踏まえた判断	二次判定	<input type="checkbox"/>	一次判定結果は以下の点について良好と評価し、更なる事業推進を求める。	⇒	指摘事項を踏まえ、事務改善、事業推進に努め、今年度の事務事業評価シートに反映させること。
		<input type="checkbox"/>	一次判定結果のとおり事業継続と判断する。		
		<input type="checkbox"/>	一次判定結果のとおり事業継続と判断するが、以下の課題を新たに追加する。		
		<input type="checkbox"/>	一次判定は以下の点について外部評価が必要と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。		
		<input type="checkbox"/>	一次判定結果のとおり事業縮小と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。		
		<input type="checkbox"/>	一次判定結果のとおり事業廃止と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。		
		<input checked="" type="checkbox"/>	既に事業廃止が決定していることから、廃止に向けた手続を行う。		

行政評価委員会の答申	外部評価	<p>答申の内容</p> <div style="border: 1px solid black; height: 100px; width: 100%;"></div>
------------	------	---

今後の方向性 (ACTION)

の経営者判断会議	事業の方向性		コメント欄
	<input type="checkbox"/>	さらに重点化する。	
	<input type="checkbox"/>	現状のまま継続する。	
	<input type="checkbox"/>	見直しの上、継続する。	
	<input type="checkbox"/>	事業の縮小を検討する。 事業を縮小する。	
	<input checked="" type="checkbox"/>	事業の休止、廃止を検討する。 事業を休止、廃止する。	